進路だより

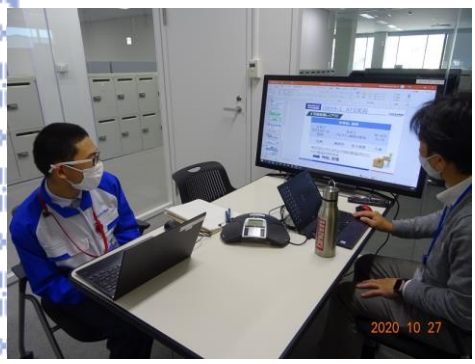


令和２年１２月２４日発行
第　３　号
福島県立平支援学校 進路指導部

後期現場実習

今年度は、コロナウイルス感染症の影響で前期の校外実習が見送りとなりましたが、後期は、１０月２６日から３０日の５日間、校外で実習することができました。今回の企業や福祉事業所等での産業現場等における実習で、生徒が行ったことや学んだこと、感じたことをご紹介します。

実習を通して学んだこと



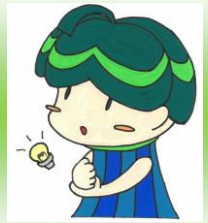
私はアルプスアルパイン株式会社で実習をさせていただきました。その中で印象に残っていることが二つあります。

一つ目は、自分から報告・連絡・相談をすることの大切さです。なぜかというと、今は学校にいて先生方が声をかけてくれるため行動できますが、学校を卒業して社会人になった時に自分から発信をしないと自分の進行状況が誰も分からず仕事が進まなくなると思ったからです。

二つ目は、物事をいろいろな角度から見ることです。なぜかというと、自分は頼まれたことや指示されたことをその通りにしか行わないくせがあるからです。しかし、実習で部長さんから社会人に必要なスキルを教えていただいたときに、実際に仕事をしたらいろいろな考えをもたないとできない仕事があるということや、一つのものをいろいろな見方をすると自分の考えにないものが発見でき、自分の知識が増えると言われたからです。

今回の実習で学んだことを学校生活で意識して行動していきたいと思います。

高等部２年１組　　庄子陽士



後期産業現場等における実習について



私は、平支援学校の事務室で実習をさせていただきました。実習は、書類運びやお弁当の発注、先生方の出張旅費の確認、封筒の宛名ラベル切り、テプラシール作成、新聞記事の確認、コピーなどを行いました。初日と二日目は、事務室の方々に教えて頂きながらやり方を覚えていきました。

仕事の中では学校の仕事に関係する新聞記事を探す仕事が難しかったです。大事な部分を見逃してしまったことがありましたが、もう一度確認して見つけることができました。今、私は、今までの実習や学習を通して最後に確認するという大切さに気づき、理解することができました。卒業までまだ時間があるので、これからの学習の中で今回気づいたことを意識してできるようになりたいと思います。また今回の実習では、初めて経験することも多く、その中で自分ができた仕事や苦手な仕事を見つけることができたので、今後の進路活動に役立てていきたいと思います。

高等部３年２組　曳地萌恵

後期産業現場等における実習を振り返って



私は、１０月２６日（月）から３０日（金）までアライブで実習をさせていただきました。

名刺作りや年賀状作り、封筒作りなどの仕事を体験してきました。

私の実習の目標は、集中して取り組む事とコミュニケーションをとる事です。

振り返ってみると、仕事に集中して取り組めて、利用者さんや職員さんとも会話をすることができましたが、利用者さんや職員さんが話しかけている時に自分の仕事を続けてしまったときがありました。今回の実習の改善点は、だれかが話しかけている時は仕事を止めて、話している人の方向を向いてしっかり聞く事です。また、誰かが話している所に割り込まないことも気を付けたいと思います。実習をとおして、自分の知らないパソコンの技法をたくさん覚えることができました。もうすぐ卒業なので、社会に役立つ人材になれるよう今後も頑張りたいと思います。



高等部３年３組　小口侑真

私は、初めての校外実習で「アライブ」に行きました。はさみでパルプをものすごく細かく切る作業をしました。他にも、パソコンやガラスのコースター作り、しおりのコーティング作業をしました。一番楽しかったのはコースター作りでした。パルプ切りはすごく集中してできて、アライブのみなさんにもほめられました。

初めての実習で、ドキドキしてなかなか声が出せなかったので、次は、知らないところでも声が出せるようにしたいと思います。それから、今はちょっと難しいけど、パソコンも私のお姉ちゃんみたいに上手にできるようになりたいです。

アライブの実習は楽しかったです。アライブのみなさん、いろいろ教えてくれて、ありがとうございました。



高等部１年２組　佐藤麻帆

令和2年（2020年）は、どのような年でしたでしょうか。

良くも悪くも様々な変化のあった年でした。最大のことは、COVID-19 だと思います。我々はペスト（14 世紀頃）、スペイン風邪（1918 年）、SARS（2002 年）、そして COVID-19（2020 年）と、これまでさまざまなウイルスや細菌などの感染症により、多くの危機に瀕してきました。

そして、今回の COVID-19 によって、「新しい生活様式」が必要になってきました、近年取り上げられる言葉に、「New Nomal」という言葉があります。「New Nomal」とは、今までとは違う基準を持った新しい世界観であると言えます。近年で言えば、1990 年代の「インターネット社会」の到来、2008 年～2009 年にあった「リーマンショック」、そして、今日、立たされている状況でもあります。

しかしながら、この「New Nomal」の時代においても、「不易と流行」、「温故知新」。つまり今までのことも大事にしつつ、新しいことも取り入れ、常にアップデートしていくことが大切なのです。

進路指導（キャリア教育）においても同様で、当然新しいことを取り入れて取り組んでいますが、今までのことも、とても大切になってきます。それは、今までの成長の軌跡にある様々な体験からの「自己選択」「自己決定」「自己解決」を育むことに他なりません。小学部段階からの積み重ねによる、様々な体験や進路に関する意識を育てることがとても大切であると思うのです。

その意味でも、児童生徒、保護者、学校が太いパイプを持って、小学部・中学部・高等部、それぞれの段階で進路指導（キャリア教育）に取り組んでいきたいと思っております。

進路指導部　稲田　健実